平成26年度　学校評価総括表　　伊丹市立西中学校

教育目標	確かな学力と豊かな心を持ち、健康でたくましい生徒の育成を図る　　～知育･徳育･体育･食育の調和のとれた人づくり～
重点目標	

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める。	・教職員全員が授業細案を作成し公開授業を行う。 ・スモールステップの学習に努め、復習演習の時間を確保する。 ・学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。	・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合が80％以上になる。また、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答した割合が85％以上になる.。 ・わかりやすい授業を行う。	C	・教職員全員が授業公開を行うにあたり、教科内での指導案検討や研究協議を行い、授業力の向上に努めた。 ・生徒アンケートにおいて、「授業がわかりやすく楽しい」と回答した割合が、中間評価では69,7％であったが、今回68,3％と下回った。 ・「先生はわかりやすくするために教え方を工夫している」と回答した割合が82,9％であった。	・ICT活用の授業作りに努める。 ・導入で本時のねらいを示す。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・先進校視察は5～10人グループを派遣し、研修などに積極的に参加し、更なる授業改善に努める。 ・特に若手教員には、授業改善の研修への参加を積極的に勧める。	・「わかりやすく楽しい授業」は生徒のやる気を呼び起こす教師と生徒の信頼関係が重要な要素となる。教育方針は的を射たものとなっている。 ・先生が「工夫している」の値が高いので、今後「わかりやすく楽しい授業」の数値も期待できるのではないか。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。	・日々の授業に、思考を深める学習を位置づけるためにグループ討議や発表場面を取り入れる。 ・ICTを活用した授業を行う。	・表現力に富んだスピーチができる。	B	・一問一答の発問には積極的であるが、思考を深めた内容や複数答がある発表では、論述表現することが不十分である。	・各教科で携帯タブレットや電子黒板の活用を増やし（現在月平均150時間を目標月平均200時間に）、理解を深め発表しやすいように工夫する。 ・4人班を基本とし、ホワイトボードを活用するなどしたグループ活動を効果的に取り入れる。 ・聴き取る能力、伝え話す能力（ことばの力）の向上をめざす。 ・6月の研究発表に向け、事前学習・場づくり・洞察力を通して教師と生徒がともに表現力を伸ばす授業成果を実現する。	・少人数グループワークは本校で進められている通り4人以下で行うことで、自分の意見が言える機会が与えられる。生徒同士でもお互いの学習力を気づいており、協力し高め合うことを期待したい。 ・グループ討議は社会人として活躍するために大切なものである。ディスカッションについて先進的文化を有するアメリカを例えに識者の考えを紹介すると、挙手して、指名を待って発言する形に限って意見交換をしているのでは、自由闊達な状況をつくりにくいとも分析されている。学習意欲を増進させる指導方法を研究願いたい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・シラバスを有効活用する。 ・一人で知識を吸収できる力をつける。 ・学習習慣を定着させるために携帯・スマホの所持率を小中の連携により、減少させる。	・生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が70％以上になる。 ・市内所持率平均の20％以下にする。	A	・積極的に発表しようとしているという項目に関しては、生徒回答の平均が63．6％で、目標の70％には届かなかった。3年生は78．3％と高かった。市内統一実力テスト、受験準備に配慮し、2学期から連日補習活動を強化した。マン・ツー・マンに近い学習形態をとったことで一人ひとりの学習効果を上げた。 ・市内のスマホ、携帯電話の所持率は79.5％であるが、本校の所持率は43.7％である。これは、市内平均よりも35.8％下回っており、目標を達成できている。新入生保護者説明会やサイバー犯罪講演会などでの啓発が効果を上げていると考えられる。	・本校の研究テーマである「表現力の育成」の効果が表れつつあるので、継続して研究を進める。 ・目標やねらいを明確にし、振り返りを取り入れた授業力向上に努める。 ・補習活動の成果を把握するため、生徒一人一人の成績変化を検証する。学習優先の日を有効に活用する。生徒にとっても、教師にとっても学力向上の結果を明白なものとする。 ・サイバー問題について、家庭教育のあり方を啓発するため、スマホ所持率を下げる小中連携を強化し、生徒の安定した生活習慣を実現する。	・個別指導も大変であるが、生徒に寄り添う気持ちで、接することが大事である。 ・高校に入れば携帯等持っていることが当然という現状である。家庭との連携が重要となる。中学生には生活習慣を安定させるため、依存するリスクや相当な支出となる経済的観念を身につけさせたい・

豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・学級経営の充実。 ・基本的生活習慣の確立。 ・規範意識の向上を目指した指導を行う。	・職員間で、職員朝礼時に情報交換を行い、その日の称賛的生徒指導に生かす。 ・小学校に出向きあいさつ運動を行う。 ・Ｑ－Ｕの実施。 ・道徳ローテーション指導の実施。 ・総合的な学習の時間にきょうだい学級での取り組みを取り入れる。 ･グループ編成した生徒たちが小学校を訪問し、英語の出前授業を行う。	・生徒アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやり」について、前年度74%を上回る。 ・保護者の回答で我が子の自立心の向上と品位を備えて成長したと捉える割合を80%以上にする。	B	・生徒アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやり」について、前年度74%を上回った。 ・保護者の回答で我が子の自立心の向上と品位を備えて成長したと捉える割合を80%以上を目標としたが76．6%と下回る結果であった。 ・行事において、きょうだい学級の取り組みの強化を行った。 ・道徳ローテーションの効果は大きく次のことがあげられる。周到な教材準備と質の高い指導、若手の指導力アップ、職員間の協力体制向上、職務遂行上風通しの良さにつながる。 ・英語出前授業によって卒業間近の生徒たちが、大きな自信を身につける。又、小中連携の効果も市内モデルケースとなっている。	・本年度Ｑ―Ｕを2回行ったことで生徒の変化をつかむことができた。Ｑ－Ｕ研修を年度当初（４月）に行い、Ｑ－Ｕ調査を第１回は５月、第２回は１０月に行い、具体的対策を考え、学級経営に生かす。 ・きょうだい学級の取り組みでは、合唱練習や生徒会活動を通して、クラス単位で異年齢交流を行い。上級生が下級生の見本となり、たてのつながりを実感できる取り組みを行う。 ・「信じあう心」を生かした学校生活に生かす。	・多忙の中でも適切に対応されている。 ・きょうだい学級と同様に上下のつながりは部活動を通しても養われる。 ・合唱コンクールで生徒が協力し、コーラスを作り上げようとする姿勢は頼もしい。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理の啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。	・保健委員会を開催し、PTAと連携した体力向上効果を目指す。 ・保体委員を通して健康管理の啓発を行う。 ・保健体育の授業では毎時間補強運動を行う	・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年を上回るために体育授業や課題活動を計画的に進める。	A	・全国体力・運動能力テスト（中２男女）の結果、本校は全国都道府県別トップレベルの体力合計点を示した。 ・伊丹市保健体育賞においても市内上位であった。 ・体格も良好である。全国平均と比べて身長は高く、体重は少ない均整のとれた状況である。家庭における食、睡眠等の良好な習慣が基盤となっている。 ・保健だより等により、生徒の健康管理の啓発に成果をあげている。 ・インフルエンザ等の感染者も多く、体育科と保健室が連携し、予防対応が必要である。 ・全校生徒を対象とした健康教育講話（薬物乱用防止）を行い、薬物濫用の怖さを知ることが出来た。 ・生徒、職員、PTA参加の学校保健委員会を開き、薬に対する知識を深めた。	・委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。	・麻薬等の薬物の怖さをもっと教えていくべきである。 ・体格も全国平均と比べて良好なので評価すべき点である。平均値であるが、身体に関する成長も良好であることは、学習力にも好ましい影響となる。 ・スマホ等の所持率が低いことは、体を動かしていることが多く、寝不足もなく視力低下を一定防止することにもなる。生活が安定していることにつながり、良好な健康を維持することにもなる。（※スマートフォンの利用と健康な生活）

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・PTA活動と協力して取り組む。 ・信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。	・携帯所持率と成績結果の相関を分析する。また、携帯・スマホに関する講演会を実施する。 ・学校だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・生徒会などを通じて、ボランティアを募集し、地域の行事などに積極的に参加する。 ・土曜オープンスクールには、小5・小6の保護者にも来校を願う。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 ・PTA企画委員会で教員のスピーチを行い、教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。	・情報発信を継続する。 時々、ホームページにアクセスする家庭40%以上を目標にする。 ・地域の方々と生徒、職員が地域と学校間で双方向の活動が行われている状況を継続する。	A	・ホームページ閲覧件数は約44%となり、目標の40%を上回った。 ・ホームページは適宜更新し、2学期より学年通信も掲載し、より多くの情報を発信した。また常に最新の情報を発信した。 ・学校通信や学年通信など連絡文書も、約80%の家庭がよく読むと回答している。 ・生徒会だけでなく、他の生徒も地域活動に意欲的に参加できるよう努力した。 ・約81%の家庭が家庭、学校、地域の連携が適切に行われていたと感じていた。 ・携帯・ｽﾏﾎに関する研修を教員が実施した。また校区の小学校での講演会に参加協力した。 ・学校補導連絡会で授業公開を同時に行い、地域の方も授業見学している。 ・夏休みの登校日には、生徒が清掃活動をしながら登校し、地域貢献した。 ・オープンスクールを小学校3～6年の親子に対象を広げ、第2回目は来校者も増えた。私学受験を考える小4年を配慮すれば公立中学校を理解願う上で効果的ととらえられる。 ・教職員が校内教育活動に専念できるようにと、親が我が子の行動に責任をもって子育てに励むPTAシャキッと運動を粘り強く継続している。職員とPTA役員の協力体制は大変良好である。	・1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。 ・内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 ・生徒会だけでなく、他の生徒も地域活動に意欲的に参加できるよう、ボランティア活動をたたえる指導を行う。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習への協力者登録を進める。（1月現在2名を平成27年度中には5名にしたい。） ・生徒たちには、校外においても学校関係者、地域のボランティアと挨拶など積極的なコミュニケーションを実行するたくましさを身につけさせる。 ①全校朝礼等でボランティア紹介 ②地区社協、PTA関連会議にて地域と学校が一体となって、生徒にかかわる方策を推進する。 ③夏祭りへの参画を継続し、保護者、職員の協力姿勢を子供たちに示す。地域活動を生活の場として実感させる。	・授業だけでも大変であるのによく努力されている。 ・地域の人たちとのつながりが非行防止にもつながる。夏まつりや文化祭、ポイ捨てキャンペーンなどの行事に今後も参加してほしい。

学校関係者評価総括

明確な教育方針のもと、教師の指導に応える生徒たちの育ちがある。教職員の効果的な指導を願っての熱心なPTA活動が功を奏している。教員と保護者、又は保護者同士の顔のみえる関係が広まっており、教育活動に対する協力体制が数々の成果を生み出している。生徒一人ひとりの個性を光らせて、才能が開花する文化・芸術におけるコンクール並びに運動競技における活躍も大いに期待したい。合唱コンクールにおける生徒たちの意欲、協調性、そして合唱の美しさは、教育関係、来校者、保護者にとって感嘆するものとなっている。次年度以降も生徒の成長を表出するイベントとして成果をつないでもらいたい。

次年度に向けた重点的な改善点

今後も家庭、地域との連携を大切にする。学力向上（家庭学習の充実）、授業力の向上、業務改善（ノー残業デー（定時退勤日）、ノー部活デー）を進め、授業や他活動の準備を念入りに行う。生徒一人ひとりの育ちがともなった各教育活動の達成度向上を目指す。校長が交代することを踏まえて保護者並びに学校関係者が教育効果の高いと認める実践を次年度につなぐことが期待されている。教職員配置の動向は若年化する傾向にある。成果を上げた磐石なOJT体制を生かし、すべての教職員の充実した職務遂行を実現したい。

自己評価の基準　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った